

降雪について安全管理マニュアル



1. 施設における安全対策

- 玄関など子どもたちが頻繁に出入りする場所には、必要に応じて凍結防止剤を散布するなどして転倒の防止に努める
- 非常口付近や避難路の除雪を徹底し、非常時の避難経路を確保する
- 園舎等の屋根雪や溶けた雪やつららの落下による事故を防止するため、巡回等による安全点検を徹底し、危険な場所には軒下にロープを張るなどして、子どもたちが立ち入らないようにする
- 送迎の際に走って転倒したり、自動車事故に遭ったりしないように、毎日繰り返し言い聞かせる
- 保護者会や「お便り」などを活用して、家庭でも雪による事故に遭わないよう話し合ってもらおう

2. 子どもの服装

雪遊びの服装で、最も大事なことは「防寒・防水」です。雪遊びをする時には、下記のポイントに注意！

雪遊びに適した服装

1. アウターは防水加工があるもの
2. 帽子は耳が隠れるもの
3. インナーはハイネック
(マフラーは遊びの邪魔になるので NG)
4. 長靴やスノーブーツは必須アイテム
5. 手袋も防水加工があるもの
(年長児は5本指の手袋が遊びやすい)
6. 靴下は厚めのもの



3. 雪遊びをする時に保育士が注意したいこと

雪のある環境はいつもより危険な箇所が多く、保育士は厳重に注意して安全管理をすることが必要。雪によっては子どもの様子も見えづらくなるので、常に緊張感をもって目を配る必要がある。

雪遊びの注意点

①環境・時間

危険箇所は何度も確認する

(雪で見えにくくなっている遊具や凍結して滑りやすくなっている場所、高い所に雪が積もっている場所、溶けた雪やつららが落ちてくる可能性がある場所)

雪遊び前に事前に屋根の雪を降ろす

雪遊びは30～40分程度にする

子どもは遊びに夢中になると「寒さ」を忘れてしまい、身体が冷えて鼻水が出てくることもあるので、遊び時間は保育士が調整する

子どもの体調チェック

冬は体調が変わりやすいので、熱・顔色・鼻水・くしゃみ・咳など、子どもの様子に気を配る



4. 雪道の歩き方

○急ぐと足下への注意力が散漫になって転倒しやすくなり、転倒したときの衝撃も大きくなりやすいので、雪道では特に余裕をもって、常に急がず焦らずに歩く。

○両手に荷物を持っていたり、ポケットに手を突っ込んでいたりすると、滑ってバランスを崩したときなど、とっさに身体を守ることができないため、大きな怪我につながることもある。できるだけ両手を空けておき、万一転倒した際に、すぐに身を守ることができるようにしておくことが大切である。

○雪のない道と同じような歩き方をしたのでは、転倒してしまう。ツルツルの路面では、次のような転倒しにくい歩き方を心がける。

1 歩幅は小さく

○大きな歩幅で歩けば、足を高く上げる必要があるので、重心移動(体の揺れ)も大きくなって転倒しやすくなります。滑りそうと思ったら、基本的に歩幅を小さくして、慎重に歩こう。

2 足の裏全体を使って

○雪道を歩くときは、心持ち重心を前にして、足の裏全体を路面につける感覚で歩こう。

3 急がず焦らず

○冬はいつもより移動に時間がかかることを理解し、心に余裕をもって、「急がず、焦らず」に歩くことが大切である。

○「余裕をもって歩く」ことによって、滑りそうな所を見分けながら歩くことができる。

○急いでいないときでも、友達とのおしゃべりなどに夢中になっていると、路面に対する注意力が薄れ、転倒しやすくなるので注意する。